



豊田市立萩野小学校たより
第333号 令和7年5月29日発行

萩野の子



学校HP 携帯サイト



4月18日 5年目のしょうゆ仕込み 懐れた手付きて！

親
ハギノショウ

今年度で5年目となる醤油仕込みを行いました。今年度も長野県で醤油製造に携わっていらっしゃる井上時満さんが来てください、醤油の作り方やその思いをお話ししてくださいました。エプロン、三角巾、マスクを着用し、全校児童で、大豆・天然塩・麹を手作業で丁寧に混ぜていきました。その後、地域の方のご厚意でいただいた井戸水と大豆を交互に樽の中に入れました。



しかし、仕込みはこれで終わりではありません。塩は重いので、そのままにしておくと下に溜まってしまいます。それを防ぐためにしばらくの間、天地返しを行います。次の日は学校公開日でしたが、朝から5・6年生は昨年度の経験を生かして手際よく作業をしていました。手間のかかる作業でしたが一生懸命に行っていました。3月には、おいしい萩野の醤油ができあがると思います。

4月30日 今年は〇〇をがんばるぞ！(23年目)

伸
ハギノショウ

午後から三角山登山を行いました。今年で23年目を迎える萩野小学校の伝統的な行事です。事前に安全確認のため、地域コーディネーターの山本さんと管理職で下見に行きました。登山道をふさいでいた木をチェーンソーで切っていただいたり、山の様子を詳しく教えていただいたりしました。当日は、登山にほどよい気温で、子どもたちはスマイル班ごとに元気に山に登っていました。地域からは、西さんと鈴木さんが一緒に登山してくださいました。今年度はたくさんの職員の異動があったため、初めて三角山に登る職員もいましたが、全員山頂にたどり着き学校を眼下に見下ろしました。山頂で子どもたちは、恒例



の今年の目標を大きな声で叫びました。「習い事のスポーツをがんばるぞ！」「通学団で誰かがけがをしないようにゆっくり歩いたり、様子を見守ったりするぞ！」など思い思いに1年間の目標を語りました。みんなの前で語った目標をぜひ、この1年間で達成できるように、「シン・ハギノショウ」を合言葉に、日々努力し伸びていってほしいと願っています。

5月15日 授業研究会

進
ハギノショウ

5・6年生の学級で、国語科「読み手が納得！どんな論の進め方？」の授業研究会を行いました。相手に何かを伝えたいときに、どのように論を進めていけば相手に納得してもらえるのかを教材文「イースター島にはなぜ森林がないのか」から学び、並行読書「北極の水はきれいな水？」で筆者がいちばん伝えたいことは何かを考える学習でした。子どもたちは、まずは個々に筆者の伝えたいこと（主張）を予想し、それを発表しました。そして、筆者のどの論の進め方からそう考えたかを問い合わせ、みんなで話し合って筆者の伝えたいこと（主張）に迫っていました。教師は、話し合いが停滞したり内容がそれたりしてしまわないようにファシリテートします。どの子も、筆者の論の進め方から筆者の主張を真剣に考えていました。



授業研究会では、筆者の伝えたいこと（主張）を予想し、それを発表しました。そして、筆者のどの論の進め方からそう考えたかを問い合わせ、みんなで話し合って筆者の伝えたいこと（主張）に迫っていました。教師は、話し合いが停滞したり内容がそれたりしてしまわないようにファシリテートします。どの子も、筆者の論の進め方から筆者の主張を真剣に考えていました。



授業後には、職員で協議会を行い、授業のよさや改善点について話し合いました。特に、子どもたちの話し合いを深めるための教師のファシリテートの仕方は有効であったかを検証しました。子どもたちが「できた」「わかった」「やってみたい」と思える授業を展開するため、私たち教師も試行錯誤しながら学び続けます。

5月23日 鮎の放流体験

心
ハギノショウ 親
ハギノショウ



巴川環境保全会（巴川漁業共同組合）の河川環境活動の一環として、全校児童がアユの放流体験活動を実施しました。今年で4年目となります。自然に親しみ、実際に体験してみることで子どもたちはわくわく・どきどき



し、「楽しい学び」をすることができます。豊田加茂水産事務所の方が出前授業をしてくださいました。アユの稚魚は人の体温でもやけどをしてしまうので、触らないようにそっと放流するそうです。子どもたちは、アユの稚魚が泳ぐバケツを手に取り、そっと川面に近づけてアユを放流しました。「元気でね」「大きくなつて帰ってきてね」と優しい気持ちでアユが元気に川を泳いでいくのを見守っていました。貴重な体験をさせていただいた豊田加茂水産事務所のみなさん、ボランティアのみなさん、ありがとうございました。